

## **隠れた所で見られる方**

マタイの福音書 6章 1-4 節

### **はじめに**

私がウェルカム・サンデーで説教をする時には、マタイの福音書 5-7 章に書かれているイエス様の説教からお話することになっています。

今日から 6 章に入りますが、6：1-18 には、私たちが行う「善行」、つまり「良い行い」について書かれています。ここには、ユダヤ人にとって代表的な三つの「善行」、つまり「施し」「祈り」「断食」について書かれています。そしてそれらを行なう時の注意点が書かれています。

「善行」、つまり「良い行い」には、神様からの「報い」が約束されています。「報い」という言葉は、「賃金」とか「報酬」と訳されることもあります。私たちが仕事をして給料を得るように、私たちは「良い行い」をすることによって、神様から「報い」を得ることができるといいます。私たちの「良い行い」は、必ず報われる時が来るのです。ローマ 2：6 にも、「**神は、一人ひとり、その人の行ないに応じて報いられます**」とあります。

ユダヤ人にとっての代表的な「善行」、つまり「良い行い」は、「施し」「祈り」「断食」の三つでした。「施し」は、隣人に対する愛を示すもので、隣人に対する「良い行い」です。そして「祈り」は、神様との交わりを深めるもので、神様に対する「良い行い」です。そして「断食」は、自己訓練をするもので、自分に対する「良い行い」です。これらの「良い行い」は、決してユダヤ人だけに求められるものではなく、イエス様を信じる私たちクリスチャンにも求められている「良い行い」と言えます。

私たちクリスチャンは、それらの「良い行い」、つまり「施し」「祈り」「断食」を通して、隣人への愛と神様との交わりと自己訓練を深め、神様からの「報い」を期待して生きることが、イエス様から求められているのだと思います。

しかし、これらの「良い行い」もやり方に気をつけないと、神様からの「報い」を受けられなくなるとイエス様は言われます。では、どんなやり方だと、神様からの「報い」を受けられなくなるのでしょうか。

### **1. 施しをする時の注意点**

1 節にはこうあります。「**人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から報いを受けられません**」。「良い行い」は、「人に見せるために人前で」やる時に、神様からの「報い」を受けられなくなるといいます。

今日の聖書箇所は、「良い行い」の中でも特に「施し」をする時の注意点が書かれていま

す。イエス様は2節でもこう言われます。「**ですから、施しをするとき、偽善者たちが人にほめてもらおうと会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。**」。

イエス様は、当時の宗教指導者である律法学者やパリサイ人のことを「偽善者」と呼んでいます。彼らは施しをする時には、わざわざ人目につく会堂や通りで行ない、自分の「良い行い」をアピールしたのです。「ラッパを吹く」とありますが、ラッパは注目を集めるために吹くものですが、彼らは、人々の注目を集めながら施しをしたのです。彼らの施しの目的は、「人にほめてもらうこと」でした。

「偽善者」という言葉は、「俳優」とか「演じる者」のことを意味します。「偽善」とは、本当の自分を隠して演じることのようにです。「人にほめてもらうこと」という本当の目的を隠して、人を助けることが第一の目的であるかのように演じて施しをすること、それをイエス様は「偽善」と呼んでいるのです。

彼らは施しをすることで、人からの評価、人にほめてもらうという「報い」を受けました。しかしイエス様は、そうであるなら彼らは神様からの「報い」を受けることができないと言われるのです。「報いを受ける」という言葉は、「領収書を出す」という意味の言葉です。領収書は、一回だけ出されるものです。同じように「報い」も一回だけ受けることができます。人からの「報い」を受けた人は、神様からの「報い」を受けることはできません。もし神様からの「報い」を受けたいなら、人からの「報い」を拒否しなければなりません。人からの「報い」を拒否した人だけ、神様からの「報い」を受けることができます。

イエス様が問題にしているのは、神様を信じて、神様を「父」として生きている人が、人からの評価を第一に求めて生きていることだと思えます。神様を信じていない人、神様の存在を認めていない人が、人からの評価を第一に求めて生きることは当然のことです。しかし、神様を信じて、神様を父として生きている人が、神様からの評価よりも人からの評価を第一に求めて生きていることをイエス様は問題にしているのです。神様を信じて、神様を父として、神様の愛の中で生きているにも拘らず、人の目ばかり気にして、人からの評価を自分の価値や人生の土台として生きていること、いつまでも人の目に縛られて生きていることを問題にしているのです。律法学者やパリサイ人は、民衆を教える宗教指導者であったにも拘わらず、神様よりも人の評価に縛られて生きていたのです。

## **2. 神の報いを得るために**

ではイエス様を信じ、神様を「父」として生きる私たちは、「施し」をする時、隣人に対する愛を示す時、どのようにすればよいのでしょうか。イエス様は、3-4節でこう言われます。「**あなたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。**」。

「右の手がしていることを左の手に知られないようにする」とは、誰にも知られないよう

にすることでしょう。人の目に映らない所で隣人に対する愛を示す、誰にも知られないように隣人に対する愛を示す、そうした隠れた「良い行い」こそ、神様からの「報い」を受けられることができます。人からの評価を受けてしまえば、神様からの「報い」を受けられません。ですから私たちは、神様しか見ていない所で、隣人に対する愛を示すのです。それがイエス様を信じ、神様を「父」として生きる私たちクリスチャンの「良い行い」のあり方、隣人に対する愛の示し方なのです。

私たちにとって「報い」を期待して生きることは、決して悪いことではありません。隣人に対する愛が、無償でなければならぬのでも、見返りを求めてはならないわけでもありません。大切なのは、誰からの「報い」を求めるかということだと思います。イエス様は、人からの「報い」を求めて、隣人に対する愛を示す「良い行い」をしてはならないと教えているのです。人からの評価、人からほめられることを求めて、「良い行い」をしてはならないと教えているのです。私たちは、神様からの評価、神様からの「報い」は大いに求めて良いのです。厳密な意味で、私たちの隣人に対する愛を示す「良い行い」は、無償でも、見返りを求めないものでもないかもしれません。なぜなら私たちは、神様から「報い」を期待しているからです。

では、神様からの「報い」とは、具体的にどんなものなのでしょうか。今日の聖書箇所には、神様からの「報い」の具体的な内容は書かれていません。しかし確かに言えることは、私たちの隣人に対する愛を示す「良い行い」に対する神様の「報い」は、決して「救い」ではないということです。私たちは「良い行い」によって、救われるわけではありません。「良い行い」によって、罪が赦されるのでも、永遠のいのちを得るのでもありません。私たちが受ける「報い」とは、「天におられる私たちの父」からの「報い」です。つまりイエス様を信じて、すでに神様の子とされ、救われた者たちが受ける「報い」なのです。私たちは、「良い行い」によって救われるわけではありません。私たちは、悔い改めてイエス様を信じることによって救われるのです。その救われた私たちが「良い行い」をする時、神様が「報い」を与えてくださるということです。

では、その神様からの「報い」はいつ与えられるのでしょうか。黙示録 22：12 には、こうあります。「**見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る**」。私たちの「良い行い」に対する最終的な「報い」は、イエス様がこの地上に再び来られる世の終わりの時に、私たちに与えられます。もちろんこの地上の生涯においても、私たちの「良い行い」が報われる時もあるでしょう。しかし最終的な「報い」は、イエス様が再び来られる最後の審判の時に与えられるのです。

私たちは、その「報い」を受けるためにこそ、人からの評価を求めず、誰にも知られず、神様だけが見ておられる所で、隣人に対する愛を示し、「良い行い」に励むべきなのです。

## **おわりに**

神様は、私たちの隣人に対する愛を見ておられます。私たちが誰にも気づかれずに行った

こと、誰も見ていない所で行った「良い行い」をちゃんと見ていてくださいます。ヘブル6:10には、こうあります。「**神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてりなさいません**」。神様は、イタリアの百人隊長であるコルネリウスという人にこう言われました。「**あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています**」(使徒10:4)。神様は、私たちの隣人に対する愛を、「良い行い」を決して忘れずに覚えていてくださいます。

そしてやがてイエス様がこの地上に来られる最後の審判の時に、こう言われるのです。「**あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渇いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれ**」(マタイ25:35-36)ました。「**まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです**」(マタイ25:40)。

イエス様がこの地上に来られる最後の審判の時、私たちの隣人に対する愛、それらの「良い行い」は、イエス様に対して行なったこととして受け取られます。そしてそれらに対して、「報い」が与えられるのです。箴言19:17にも、「**貧しい者に施しをするのは、主に貸すこと。主がその行いに報いてくださる**」とあります。

私たちには、人からの評価を期待して生きるか、神様からの「報い」を期待して生きるか、二つの生き方があります。私たちはどちらの生き方を選ぶでしょうか。イエス様はこう言われます。「**自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に開けて盗むこともありません**」(マタイ6:19-20)。人からの評価を期待して生きる生き方は、地上に宝を蓄えるようなものです。その生き方は、非常に危ういもので、錆びついたり、移り変わったり、なくなったりするものです。しかし神様から「報い」を期待して生きる生き方は、天に宝を蓄えるようなものです。その生き方は、確かで安全なものなので、決して変わったりなくなったりするものではありません。

隣人に対する愛は、空腹の人に食べ物を与え、喉が渇いている人に飲み物を与え、宿に困っている人を泊まらせ、着る物がない人に洋服を与え、病気の人を見舞い、牢にいる人を訪問する、そのようにして示されます。私たちはイエス様に対するように隣人を愛し、人からの評価ではなく、神様からの「報い」だけを期待して歩んでいきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、あなたを知らない時は、人からの評価をひたすら求め、それにすがりながら生きていました。それはまさに地上に宝を蓄えるような生き方でした。しかし私たちは、あなたが「報い」てくださることを知りました。誰も見ていなくても、あなたが見ていてくださることを知りました。どうか私たちが天に宝を蓄えるような生き方ができるように導いてください。あなたからの「報い」だけを期待して、イエス様に対するように目の前の隣人に仕え、愛を示していけますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。